



おぎしま防災キャンプ

荻島地区コミュニティ推進協議会

青少年部会長 手塚 麻美

今年度、昨年までのしらこぼと運動公園での「ドキドキキャンプ」に変わり、荻島地区センターにおいて、去る8月18日に「おぎしま防災キャンプ」を開催しました。最近、頻繁に起きている地震やゲリラ豪雨、猛烈な台風など災害も身近に感じられるようになり、子どもたちにも防災意識が高まる一つのきっかけになればと思います。

体験内容については、起震車体験、防災倉庫見学、ダンボールを利用した間仕切り、簡易トイレ、ベッドの組み立て、そしてアルファ米、乾パンの試食など、子どもたちは一生懸命に取り組んでいました。

今回体験して学んだことを大事にして欲しいと思います。

開催にあたり、文教大学アメリカンフットボール部「オーディン」のみなさん、越谷市消防署谷中分署の職員のみなさん、荻島小学校PTAのみなさんにご尽力いただき、感謝申し上げます。



地震についての学習



段ボールベッド(組み立て前)



アルファ米・乾パン



集合写真



段ボールベッド組み立て



うきうきアメフトスポーツ大会を終えて

文教大学アメリカンフットボール部

主将 石丸 明日翔

うきうきアメフトスポーツ大会に参加してくださった皆様、ありがとうございました。昨年に続き、2度目の開催を無事に終えることができました。

2度目ということで、規模も少し大きくなり、少ない部員数での運営は不安でしたが、多くの方々のご協力で、今回も小学生の「楽しかった」の声を聞くことができました。この事業をやりきることができました。

これからも、地域の皆様に応援していただけるよう日々の活動に取り組みます



子ども農業体験事業

田植え体験をして 5年1組 堀越 咲来

私は田植え体験をして、とてもおもしろいことだと分かりました。歩くだけでも転びそうになったり、足がしずんだりしてしまっただけで、農家の人たちは、苗がなくなったらわたしらしくてくれたので、すごいなと思いました。

他にも、植えるときにしゃがんで、とても大変なせいだったけれど、米を食べたり買ったりしてくれる人のために一年中頑張って育てられているのが分かって、今度からは米を食べるときに、毎日感謝したいと思います。



九月の稲刈りも楽しみになりました。それまでの間、地いきの人たちが一生けんめい育ててくれるので、毎日どのように育っているのを見ながら生活していきたいです。

米作りの田植え 5年2組 増田 彩希

3時間目に、田植えをしました。

田んぼの中に入ってみると土がどろどろしていて転びそうになりました。そしてロープの手前に稲を4～6本置く作業をしました。

足が取られてしまったり、うまくできなかったりしたけどだんだん慣れてきて、できるようになりました。最初は心配していたけれどできるようになってとても嬉しかったです。

そして、田植えを終えて気づきました。身近な「米」でもこうやって



苦労して作っている人たちがいると。

そう思うと身近な物でも大切にしようと思うことができました。



当日は、例年にない猛暑にもかかわらず、大勢の方に楽しんでいただくことができました。大会後半では、急に天候が悪化したため、盆踊りも第一部で終了となりました。来年は最後までできることを期待し、また、皆さんとお会いできることを楽しみにしております。



荻島地区盆踊り大会実行委員会

実行委員長 関根 久治

荻島地区盆踊り大会

7月23日に荻島地区盆踊り大会を開催しました。これまでは、大会実行委員やスポ・レク委員で行ってきたやぐら組みを今回は業務委託により行い、慣れないながらも準備を進めて本番を迎えることができました。また、抽選会についても今年度から中止となりました。

青少年指導員協議会

会長 大熊 正行

「青少年健全育成研修会」について

7月7日、荻島地区センター・公民館で令和6年度青少年健全育成研修会を開催いたしました。

当日は、NPO法人はつばす代表の金尻カズナ氏を講師に招き、デジタル性暴力講座、青少年を性暴力から守るために〜と題して、講演していただきました。

スマートフォンの普及と性的搾取ビジネスによって、男女問わず青少年が性的被害に遭っている現状を知ることができました。また、青少年を性的被害から守るためには被害に至る経過や加害者の手口を知ることが、大切だと感じました。

今後も、荻島地区の皆様方のご理解とご協力のもと、青少年の健全育成に取り組んで参りますので、何卒宜しくお願い致します。



編集後記

コロナ明けの昨年に続き、今年度も通常通り事業が開催されています。コロナ前と比べ、少子化・高齢化が進み、また、事業を休んでいたために継続性が薄れてしまったこともあり、内容の変更をしながらの事業開催です。スタッフ側もやり易くなる、参加者のニーズにも合うというのであれば変化は必要です。今後もより良い変化があることに期待したいものです。